既習事項をベースにスモールステップで展開した「あまりのある割り算」の指導
～本人の理解しやすい状況を活用した事例～

学部・教科	小学部・算数科	事例コード	２４０１

学習グループの実態

- 小学部３学年（児童１名）。骨伝導補聴器を使用している。音声言語が主なコミュニケーション手段である。手話や指文字があると、より理解しやすい。
- かけ算やわり算の考え方は身に付いている。操作的な活動を行ったり、具体的な数や単位を実際に経験したりすると学習が身に付きやすい。
- 学年相応の書字の量は難しい。

単元(題材)名

「わり算を考えよう」～あまりのあるわり算～

学習指導要領の内容

小学校／第３学年　Ａ数と計算　　※学習内容をもとに中学部２段階に分類
（４）除法
ア　(ア)(イ)(ウ)(エ)
イ　(ア)(イ)

単元(題材)の目標

＊ 本事例集では、学習指導要領の目標及び内容に基づいた表現に編集しています。

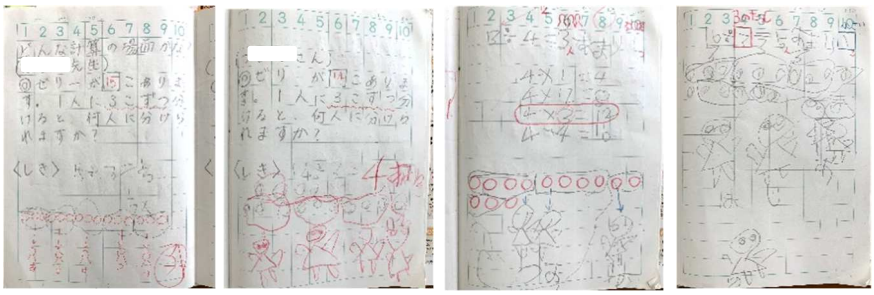
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
○わりきれない場合の除法の計算の仕方が分かる。【知】 ○わりきれない場合の余りと除数の大小関係が分かる。【知】	○数量の関係に着目し、計算方法を判断することができる。【思】 ○除法の意味や計算の性質について考え、説明ができる。【思】	○問題文から計算し、導いた結果を吟味し、振り返ろうとする。【学】 ○身の回りの事象に除法の考え方を当てはめて活用しようとする。【学】

単元(題材)の計画

総時数７時間
1　あまりのあるわり算の仕方を考える。（１時間）
2　あまりの数とわる数の大きさを比べ、関係を知る。（１時間）
3　問題の性質を見極めて計算方法を判断する。※等分除と包含除（２時間）
4　答えの確かめ方を理解する。（１時間）
5　あまりのとらえ方について理解を深める。（１時間）
6　身の回りの事象からあまりのあるわり算を考える。（１時間）

指導の実際

- ポイントとなる既習事項を確認しながら、確実な定着をねらった（「○こずつ分ける」という文から、割り算を使うこと。わる数の段の九九を使って考えること）。
- 自信をもってできる問題から始め、新しい学習につなげることで（似た問題文でわられる数を変えたもの）、うまくいかないことから「いつもと違うな」という思いをもたせるように展開した。
- あまりの有無の学習の際に「わりきれない」「わりきれる」などの新出語句については指文字で確認する他、手拍子を付けながら読んだりゲーム感覚で覚えさせたりすることで、言葉に慣れるような活動を設定した。
- 問題の内容に合わせて、本人の生活場面に近い具体的な人を登場させることで、課題への意欲を高められるようにした（「○人に分けます」→友達や先生などを登場させて考える）。
- 問題を図に表す際に、○で囲み「まとまりをつくる」ように指導した。



- 指導をスモールステップで丁寧に行うことにより、学習効果が高まった。今後の定着に向け四則計算の基礎基本が必要であるため、さらなる工夫が求められる。

（令和６年度作成）